

横須賀山岳会 75 周年記念山行ヨーロッパ遠征

当会の 75 周年を迎えるにあたって、何か大きな目標を設定したいと勘案したところ、自然と頭に浮かんだのがヨーロッパの峰々（モンブラン、アイガー、マッターホルン）であった。アルパインクライミングを嗜む誰もが、一度はアルピニズム発祥の地に思いを馳せるのではないだろうか。我々横須賀山岳会の現役メンバーも正にそれに該当していた。（2022 年冬期、河本、柴田が各々が自分がやってみたいと思う山をテント会議において語りあった結果）

そこで 2023 年度（第 74 回）総会にて概案を、2024 年度（第 75 回）総会にて正式に計画を発表したところ、当会 75 周年記念山行として初めて認定され、それにチャレンジする運びとなった。以下はその記録である。

第一部

計画、準備、費用等

1 参加メンバー

河本嘉照 CL, 柴田吉暁 SL の二名

1) 先発河本 : 8/5 (月) ~ 8/18 (日)

河本が単独先行でモンブランコスミックルートを目指す。

2) 後発柴田 : 8/10 (土) ~ 8/18 (日)

河本、柴田が 8/10 ジュネーヴにて合流後、アイガー、マッターホルンを目指す。

2 移動手段

交通費総費用

河本:¥315,241 (14日間)

柴田:¥288,661 (10日間)

1) 航空券

河本 : ¥216,280

柴田 : ¥216,966

①先発河本

今回は旅行サイト、Expedia を利用。チケット代は往復¥216,280 であった。数日に渡り執拗にネット検索をかけてみたが、スイスへの直行便は存在せず、羽田発パリ乗り換えジュネーヴ着の日本航空とエールフランスのコードシェア便が一番コスパが良いように思えた。因みに最安値でエチオピア航空が18万円代から選択できたが、たった3万円の差であればサービスに定評のある JAL を選んだ方が良くと判断した。2024/4/10 購入。スケジュールは以下の通り。

往路

8/5 (月) JL0045、AF1242、コードシェア便

10:20 羽田空港 (東京) 17:55 シャルル・ド・ゴール空港 (パリ)

搭乗時間 14 時間 35 分、乗継時間 2 時間 50 分

20:45 シャルル・ド・ゴール空港 21:55 コアントラン国際空港(ジュネーヴ)

搭乗時間 1 時間 10 分 合計所要時間 18 時間 35 分

復路

8/17 (土) ~18 (日) AF1443 便、JA0046 便

14:40 コアントラン国際空港 15:55 シャルル・ド・ゴール空港

搭乗時間 1 時間 15 分、乗継時間 5 時間 30 分

20:25 シャルル・ド・ゴール空港 翌 17:20 羽田空港

搭乗時間 13 時間 55 分 合計所要時間 20 時間 40 分

②後発柴田

フライトチケット検索サイト Skyscanner を利用。¥216,966。19万円代から中華国際航空の選択もあったがそこはやはり安心の JAL を選択、

2024/4/10 購入。

往路

8/10 (土) JL0045 便 AF1242 便

10:20 羽田空港 17:55 シャルル・ド・ゴール空港

搭乗時間 14 間 35 分、乗継時間 2 時間 50 分

20:45 シャルル・ド・ゴール空港 21:55 コアントラン国際空港

搭乗時間 1 時間 10 分 合計所要時間 18 時間 35 分

復路

河本と同便

合計所要時間 20 時間 40 分

※尚、実際のフライトは遅延が生じ、往復便共に予定より 2 時間以上余計にかかっている。

※日本とフランス、スイスの時差は-9 時間。3/31~10/27 までの期間はサマータイムが適用される。

2) バス、鉄道、ケーブルカー、他

河本：¥98,961

柴田：¥71,695

①シャモニー（フランス）へのシャトルバス

ジュネーヴ⇄シャモニー 往復¥3,640

ジュネーヴからシャモニーへはシャトルバスが一番早い上に安い。Omio (<https://www.omio.jp>) というオンライン予約サイトを利用し、Swiss Tour というバス会社のチケットを事前購入。チケット購入後、アプリ内にモバイルチケット（QR コード）が付与されるので、それを運転手に提示すれば乗車できる。往復でも片道だけでも¥3,640 という謎の料金設定であった。

②フランスケーブルカー

シャモニー⇄エギーユ・デュ・ミディ ¥23,626 (4 日間パス)

シャモニーからエギーユ・デュ・ミディまではケーブルカーを利用。シャモニーケーブルカーは「ヨーロッパ個人旅行みゆう」(<https://www.myushop.net/>)で事前購入ができる。ミディ行きのケーブルカーはオーバーツーリズム気味なので、事前予約は必須。(登りだけ、帰りは整理券が配られる) 下見、予備日を含め4日間パスを購入した方が良い。

③スイス鉄道&ケーブルカー

- ・スイスハーフフェアチケット ¥19,669

スイスでの移動は、鉄道及びケーブルカーもハーフフェアチケットがあれば半額で利用可能。他にもトラベラーズパス等のサービスもあるが、このハーフフェアチケットが一番コスパが良い。もはやマストアイテムである。事前に [klook.com](https://www.klook.com) というウェブサイトですべて事前購入。(<https://www.klook.com>)

- ・ジュネーヴ空港→ツェルマット (鉄道) ¥9,777
- ・ツェルマット⇄シュバルツゼー (ゴンドラ往復) ¥5,413
- ・ツェルマット→グリンデルワルト (鉄道) ¥8,613
- ・グリンデルワルト⇄ユングフラウヨッホ (アイガーエクスプレス&鉄道) ¥20,367
- ・グリンデルワルト→ジュネーヴ空港 (鉄道) ¥7,856

3 宿泊地

宿泊費総費用

河本:¥99,873

柴田:¥51,278

1) 山小屋

- ・コスミック小屋一泊二食付き¥6,153

コスミック小屋は HP から日本で事前予約。前金を支払い、残りを現地で支払う手筈であったが、どういう訳か小屋番の方から全ての支払いが完了している旨を伝えられる。何度か引き下がったが本来支払うべき金額を受取ってもらえなかったため、上記の値段となった。実際はもうちょっと高い金額だと思われる。

<https://www.chamonix-guides.com/en/mountain-huts/refuge-des-cosmiques>

- ・ヘルンリ小屋一泊二食付き¥16,835

ヘルンリ小屋も HP から予約可能。予約はそこまでシビアでなく、現地にて登山 2 日前に予約。前日もそれなりに空きがあった。

<https://www.myswitzerland.com/ja/accommodations/hoernli-hut/>

2) キャンプ場

- ・Camping Les Arolles (シャモニー)

2泊&1日荷物預け¥5,250 (€32,60)

エギーユ・デュ・ミディへのケーブルカー駅まで徒歩 15 分の好立地。スタッフも本当に親切で登山中は荷物も預かってもらえる。今回の旅中、唯一クレジットカードが使えなかった施設なのでそこは注意が必要。予約不可。

- ・キャンピングツェルマット

1泊と2日テント残置、スパ(トータル2日間)¥13,150

ツェルマット駅から徒歩 3 分の好立地。スタッフ不在時は先にテントを張った後受付で OK。スタッフはとても親切。近くに提携のスパもあり利用できる。旅の疲れを癒してくれた。予約不可。

- ・キャンピング アイガー ノルトバンド

2泊（コインランドリー料金込み）¥8,181

グリンデルワルトターミナル駅より徒歩15分。今回利用したキャンプ場の中で唯一コインランドリー完備。ヨーロッパにはホテルですらコインランドリーを完備していない所が多い。ここでの洗濯は貴重であった。予約不可。

3) ホテル

・ナッシュプラティックホテル ¥18,467 + ¥669 (Tax) = ¥19,136

ジュネーヴ到着時に河本が利用したホテル。フロントの対応が最悪。施設は綺麗だが不愉快な思いをしたのでお勧めはできない。

・イビスバジェットジュネーヴパレクスポ

8/9 二人分 ¥11,066 + ¥,338 = ¥12,566

8/16 一人分 ¥17,874 + ¥638 = ¥18,512 (帰国前日に河本のみ利用。)

河本柴田、合流時に利用。2名一室の値段。部屋は綺麗でスタッフ対応も良い。

・ジュネーブホステル

¥8,444

帰国前日に柴田のみが利用。上記記載通り最後の2日間は別行動とした為。

4 山岳保険

日山協山岳共済会を利用

河本：14 日間 ¥16,040 + ¥1,000 入会金

柴田：10 日間 ¥10,600 + ¥1,000 入会金

今現在海外登山保険は、これ一択ではないだろうか。手続きに時間が掛かるので早めに予定を伝えておく方が良い。その他にスイス・エア・レスキュー rega というサービスがある。有料のレスキューサービスなのだが、実にスイス国民の半数がこのサービスに加入していると言う事実が興味深い。山行に留まらずあらゆる有事の際、スイス国内であればどんな所においても 20 分以内で駆けつけてくれるとの事。費用は年間 30 スイスフラン(2024/9/7 現在のレートで約 ¥5,000)。今回我々は利用していない。

5 通信

河本：30 日間 10GB ¥1,805

柴田：10 日間 5GB ¥1,480

Wise SIM という会社のプリペイドシムをアマゾンで事前購入。河本が購入したものは30日間10GBで音声通話も無制限でできてしまうという優れもの。ヨーロッパ 72 カ国で利用可能で実際にフランス、スイスの山間部でも問題なく利用できた。設定も現地に到着して物理 SIM を差し替えるだけ。河本、柴田のスマホでは特に設定は不要であった。(柴田も似た様なサービスを利用)

※尚、この通信手段は日本へのダイレクトコールはできない。通話をする場合は LINE 通話や、Skype を利用すると良い。

6 食事

食事に関しては個人差があるので詳細については割愛させて頂くが、キオスクでサンドイッチ&コーヒー(スイス)が¥1,200程度。マクドナルドのビッグマックセットがフランスでは¥1,800、スイスでは¥2,000程度。ビール 500ml 缶が¥350程度。今回はほぼ自炊して節約した。

7 支払い(現金、クレジットカード)

現金に関しては河本は外貨両替マネーバンクを利用
<https://moneybank.co.jp/>

ユーロもスイスフランも上記のサービスを利用。手数料が最安級の上、現地通貨を自宅まで郵送してくれるという優れたサービス。7万円以上の取引から利用可能。結果的にはフランス、スイス共に公共交通機関を含むほぼ全てのサービスでクレジットカードが使えた為、現金の出番は全くなかった。またクレジットカードについてだが、ヨーロッパ圏ではMasterしか使えない店があると聞いていたが、我々が利用した全ての店舗サービスでVISAが使えた。念の為、どちらも用意しておいた方が良さだろう。空港で換金も可能であるが、手数料が高く付くので注意が必要。

8 寄付金

河本:¥100,000

柴田:¥100,000

今回は大変有難い事に今回の山行に際し、当会 75 周年記念行事として横須賀山岳会、並びに個人的にも寄付金を頂いてしまった。感謝しても仕切れない思いである。集まった総額を仲良く二分させて頂いた。

9 総費用

以上を纏め、実際にかかった費用を以下に現す。

2024年ヨーロッパ遠征総費用

項目	河本	柴田	小計 (円)
交通機関	¥315,241	¥288,661	¥603,902
航空券	¥216,280	¥216,966	¥433,246
ジュネーヴ⇄シャモニー (シャトルバス)	¥3,640	¥-	¥3,640
シャモニーケーブルカー4日間パス	¥23,626	¥-	¥23,626
スイス-halfフェアチケット	¥19,669	¥19,669	¥39,338
ジュネーヴ空港→ツェルマット (鉄道)	¥9,777	¥9,777	¥19,554
ツェルマット⇄シュバルツゼー (ゴンドラ)	¥5,413	¥5,413	¥10,826
ツェルマット→グリンデルワルト (鉄道)	¥8,613	¥8,613	¥17,226
グリンデルワルト⇄ユングフラウヨッホ (ゴンドラ&鉄道)	¥20,367	¥20,367	¥40,734
グリンデルワルト→ジュネーヴ空港 (鉄道)	¥7,856	¥7,856	¥15,712
宿泊費	¥99,783	¥59,176	¥158,959
コスミック小屋	¥6,153	¥-	¥6,153
ヘルンリ小屋	¥16,835	¥16,835	¥33,670
Camping Les Arolles (二泊&一日荷物預け)	¥5,250	¥-	¥5,250
Camping Zermatt (二泊&一泊残置&スパ)	¥13,150	¥13,150	¥26,300
Camping Eigernordwand(二泊&ランドリー)	¥8,181	¥8,181	¥16,362
ナッシュプラティックホテル	¥19,136	¥-	¥19,136
イビスバジェットジュネーブパレクスボ	¥31,078	¥12,566	¥43,644
ジュネーヴホステル	¥-	¥8,444	¥8,444
保険料	¥17,040	¥11,600	¥28,640
日山協山山岳共済会	¥16,040	¥10,600	¥26,640
日山協山山岳共済会入会金	¥1,000	¥1,000	¥2,000
通信費	¥1,805	¥1,480	¥3,285
プリペイドシム	¥1,805	¥1,480	¥3,285
食費、光熱費 (概算)	¥38,300	¥21,300	¥59,600
食費	¥20,000	15000	¥35,000

酒代	¥14,000	3,000	¥17,000
タバコ	¥3,500	2,500	¥6,000
ガス缶	¥800	800	¥1,600
寄付金	-¥100,000	-¥100,000	-¥200,000
横須賀山岳会	¥50,000	¥50,000	¥100,000
個人(4名)	¥50,000	¥50,000	¥100,000
合計金額	¥372,169	¥282,217	¥654,386

第二部

山行記録

1 フランスシャモニー編 8/5-10(河本記)

先ず結論から申し上げますと、河本のシャモニー編(モンブラン単独山行)は敗退の記録である。これからモンブラン山行を目指す方にとって、アプローチ等に関してはそれなりに有益な情報となり得るが、実際の山行に関しては全く観る価値のないものである。純粋に山行記録に興味を示して頂いている方は2 スイスツェルマット編へ読み進めて頂きたい。

2024年8月5日(月)

天気: 晴れ

この日は移動日。6:00 に自宅を出発。バスに乗り最寄り駅の逗子駅から羽田までは乗り換え無しで約1時間で到着。自宅から羽田は頗るアクセスは良いのだが荷物が滅茶苦茶重い。45L 満タンのザックを担ぎ、25kg のスーツケースを引き、前方にも身の回り品を22L ザックに詰め込んでいた。とにかく荷物から解放されたかったので、羽田到着早々チェックインカウンターへ向かう。JAL の手荷物許容量は身の回り品以外に、23kg×2 までとなっているのだが、私のスーツケースは自宅で計量していたのにも関わらず、2kg オーバーしていた。しかし誤差ということで多めにみてもらえた。さすが JAL はサービスが良い。チェックインを済ませとりあえず景気づけにビールを数本飲んでいると搭乗時間になった。この時期は丁度 2024 パリオリンピック

が開催されていて、レスリング日本代表の選手団と同便となった事を思い出す。搭乗口に4名のJALのスタッフさんが「がんばれ！日本！」の横断幕を掲げて立っていた。何故だろうか自分はその事に大変感動し目頭が熱くなった。まるで自分まで応援してもらっている錯覚に陥り、いや実際この山行は、本当に多くの方が支えて下さり成立しているものなんだと再確認することができ、絶対に成果を出してやろうと密かに心に誓った。

羽田→ジャルルドゴールまでのフライトはほぼオンタイム。到着時の機内もまたレスリング日本代表応援ムード一色でまた感動的であった。そんなこんなで乗り換えロビーに着き時刻表を確認したところ、ジュネーヴ行きのフライトに遅延が生じた事に気が付いた。ジュネーヴ到着が大幅に遅れるのでとりあえず予約していたホテルに連絡を入れようと思い、用意していたヨーロッパSIMを手持ちのスマホに差し込む。設定無しですんなり開通した。すぐさまナッシュプラティックホテルに電話をかけてみるが、出てもらえず、深夜にチェックインできるかどうか不安になった。結局ホテルには予定より3時間遅れで到着したのだが、フロントの対応が最悪であった。業務そっこのけで従業員同士の私語、また電話が鳴っているにも関わらず出ないと言った感じ。とにかくナッシュプラティックホテルは利用しない方が良い。チェックインに無駄な時間を要し、また不快な思いをしつつ明日も早いのでシャワーを浴び即寝た。(2:00くらい)

8月6日(火)

天気：晴れ

シャモニー行きのバスが7:45発だったので6:00起床とした。30分で支度を済ませ、6:45に空港行きのシャトルバスに乗り7:00に到着。とりあえずお腹が減っていたので、空港内のKIOSKでサンドイッチとコーヒーを買い(¥1200くらい)朝食とした。なんの変哲もないチキンサンドであったがボリュームもしっかりあり、大変美味しく頂けた。シャモニー行きのバス停は空港ロビーから南東方向へ進み横断歩道を超えた先にあった。バスはほぼ定時に到着。OMIOで予約してあったので、モバイルチケット(QRコード)を運転手に提示し問題なく搭乗できた。シャモニーへの移動時間は1時間40分程。ほぼオンタイム、9:30頃シャモニーへ到着した。この日は移動日。

シャモニーに到着し景色を楽しむ余裕もなく、とりあえず寝床を確保すべく Camping Les Arolles へ向かう。ここはバスターミナルから徒歩 10 分の好立地だが事前に予約はできない。ダメ元で伺ったのだが運良く空きがありすんなり寝床を確保できた。スタッフも親切でシャワー完備、スマホの充電も可能。登山中、荷物も 1 日€5 で預かってくれるので言うことなしである。チェックインからテント設営を 1 時間程で済ませ、街を散策すべく 11:00 頃キャンプ場を出発した。憧れのシャモニー街を歩いていると、ようやく心の余裕が生まれ、自分がアルピニズム発祥の地にいる事実を噛み締める。そんな気分も束の間、とりあえず情報収集の為アルパインセンターへ向かったのだが、ここはどうやらツアーガイドを斡旋する所の様で、ガイドレス登山をやろうとしている自分には全く有益な情報は得られなかった。因みにモンブランの天気は掲示板に貼られていたが、同じ情報を <https://en.chamonix.com> で確認できる。余談であるが、天気なら mountain-forecast App をスマホにダウンロードしておいた方が良い。ヨーロッパの山であればかなり正確に天気予報を見る事ができる。

そんなこんなで正午過ぎ、お腹が減ったのでランチでもと思ったのだが、何を食べて良いのかわからない。町をウロウロしているとマクドナルドが目に入り、迷わず入店。フランスのマックの素晴らしいところはセットメニューのドリンクでビールが選べる場所である。味は日本のそれと全く変わらない。美味しく頂いた。

この日はやる事が多い。次にやる事は偵察の為エギーユ・デュ・ミディ 13:00-14:00 出発予定のケーブルカーに乗ることだ。これも日本でヨーロッパ個人旅行サイト「みゅう」から事前に予約してあった。Web 上で支払いが完了すると PDF ファイルが付与されるのでそれをプリントアウトしチケット売り場の方に渡す。私に対応してくれたスタッフは慣れていないのか、色々手間取っていたが、予約&支払いが完了している旨を根気良く伝えたところ、ベテランスタッフに交代してもらい、問題なく 4 日間パスをゲットする事ができた。海外ではよくある事だが、やはりいい加減なスタッフが一定数いる事は否定できない。と言うよりも日本が異常な程サービスがよいのだろうか。とにかく証明書を持って怯まず主張を続ければ何とかなる。

さて実際のケーブルカーは完全なオーバーツーリズムである。13:00 出発の整理券を配られたが、乗れたのが 13:30。14:00 頃山頂駅に到着したのだが、到着と同時に帰りの整理券を配られる仕組みであった。この日はおおよそ 2 時間待ちであった。私は元々その程度滞在する予定だったので問題はなかったが、一般の観光客は体調が悪くなる方も続出しており、いささか気の毒に思えた。時速 40km の速さでいきなり富士山頂より高い標高に上がるので無理もない。日本で高所トレーニングの準備をしてきた私でさえ、やはり体調に支障をきたしていた。ちょっとした階段を登るだけで意識が朦朧とし息苦しく、また吐き気を催していた。果たしてこんな状態でモンブラン山頂にたどり着けるものだろうかと思いつつ、展望台からコスミックルートを偵察してみるとある種の絶望感が芽生えてきた。なんとルート上に雪崩のデブリが見て取れた。また雪が少なく、下調べから想像していたコスミックルートとこの日のルート状況には大きな開きがある様感じた。色々考えている余裕もなかったので、とりあえず明日は小屋まで行っただけ行こうと思いエギーユ・デュ・ミディを後にした。

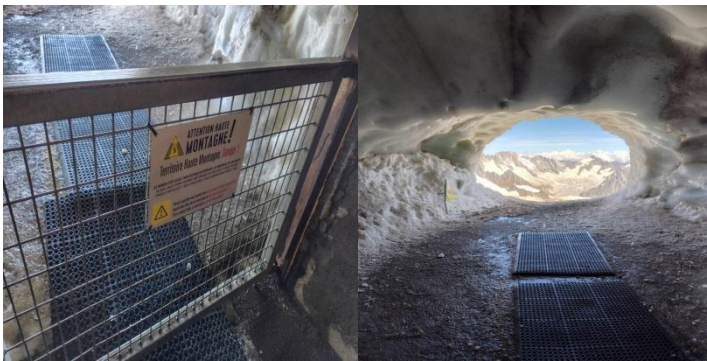
18:00 頃キャンプ場に到着。買い物（ガス缶等）、自炊、身支度、明日の準備を済ませ 21:00 頃就寝とした。因みにヨーロッパはサマータイム適用なので 21:00 でも十分に明るい。しかし前日寝不足気味であったので朝まで快眠できた。

8月7日（水）

天気：晴れ後曇り、一時雪

シャモニーに限らずヨーロッパの山間部は日中との寒暖差が激しい。この日は時間的にゆとりがあったので特に目覚ましをかけなかったが、寒さで自然と 5:00 頃起床となった。キャンプ場の受付が 9:00 からなのでそれまでゆっくり朝食（自炊）を取り、登山の準備をしながら時間を過ごした。時間になり一つのトランクに無理やり詰め込んだ荷物を預ける。荷物はどんなに重くても一つ 1 日€5 で預かってもらえる。これからモンブランへ向かうので正確にいつ戻れるか分からない旨をスタッフに伝えると、料金は後払いなので気にしなくて良いと言ってもらえた。といった感じでかなり早いのだが出発の準備が整ったので 10:00 にキャンプ場を後にした。

10:30 頃ケーブルカー駅に着いたのだが、この日は午後から天気が荒れる予報だった為、エギーユ・デュ・ミディへの観光客は昨日程混雑していない状況であった。私の予約時間は 12:00 だったのだが、特にやる事もなく、早く上にあがって体を慣らしたいと思ったのでチケット売り場のスタッフに相談したところ、予定より早い時間の出発が可能となった。そんなこんなで 11:00 にエギーユ・デュ・ミディ駅に到着。登山口はゲートで閉じられているのだが、恐らくこのゲートは開くことはない。飛び越えて勝手に中へ入ったが特に何も言われなかったので、きっとそういう事なのだろう。他の登山客にもどうやって入ったか訪ねられたが、Just jump in だと答えた。この日は昨日に比べると体調は頗る良かった。特に息苦しさも感じず、これなら問題なく行動出来そうだと思い安心していった。



開かないゲート

出発地点

さて 11:30 頃、いよいよ出発したのであるが、いきなりの嫌らしい急斜面の降りて面を食らう。雪質は腐り気味であったが、トレースはバッチリ付いていた。急斜面を 10 分程下ると広大な氷河の上に立つ。所々シュルンドがパツリと口を開いていたが、この辺りは踏み跡を辿ればどうという事はない。コスミック小屋までのルートはトレースを忠実に踏めば問題ないものと思われる。勿論積雪後、トレースがない場合は十分注意が必要であるが。周りのパーティーは皆もれなくコンテで進んでいた。

出発から約一時間半、13:00 にコスミック小屋へ到着。アイゼン、ピッケル、登攀具等を入口のロッカーへ残置し入室するルールであった。整理整頓をしチェックインをしようとスタッフに声をかけると、14:00 からだと言われてしまった。特にやる事がないので、時間までここにいて良いかと尋ねると問題ないと言ってもらえた。小屋のバルコニーに出ると目の前にコスミック

クルートが広がっていた。やはり雪崩の跡が顕著に見てとれトレースも消失していた。正直一人で登りきるイメージが全くできなかった。そんな気持ちを抱えつつ、時間になったのでフロントへ向かった。Web で予約済みと伝え領収書を提出すると確認が取れた様で、その後いろいろと質問される。山岳会に所属しているかどうか、何人でどこに行くか等。一人でモンブランを目指している旨を伝えると、この時点で計画を変更する様に忠告されてしまった。モンブランはいつも危険であるが、今は特に危険。2 日前に雪崩が発生しており、3 人亡くなっているとの事であった。ガイド登山もしばらく中止の様で、明日地元フランス隊が調査の為に向かうのみという事であった。私は少し考えさせて欲しい旨を伝えた。勿論、どうするかはあなたが決める事だけど、私はあなたの為に忠告しています。良く考えてくれと念を押されてしまった。とりあえず部屋に入り考えたいと尋ねると、行き先により起床時間が違う為部屋を分けているので、あなたが明日どこに行くのか決めてからだ返答される。OK、もう一度ルートを確認して戻ってくると言い、バルコニーへ向かった。しかし何度見返してもポジティブな感情が生まれてこなかった。モンブラン山行は中止せざるを得ないとこの時思った。15 分程経過しフロントへ戻ると、待ってましたと言わんばかりに小屋番の女性が話しかけてきた。モンブラン行きを諦めた旨を伝えると、嬉しそうな顔でグットアンサーだと言われた。ヨーロッパではガイドレス登山は煙たがられ、色々と嫌がらせに合うと言う事を事前に聞いていたが、私はそういった印象を（マッターホルン登攀中も含め）全く感じなかった。今回の私のチャレンジも小屋側としても適切な助言であり、むしろ私は人の温かさに触れた気がしていた。見ず知らずの一登山者に真摯に向き合い、適切な助言をくれたコスミック小屋のスタッフには敬意を表したいと心から思えた。



雪崩跡

と言った訳で、特に何かをした訳ではないのだが、モンブラン単独登覇は

この時点で失敗に終わった。その後特にやる事もないので、夕食を頂きながら、しこたまビールをあおり就寝した。

8月8日（木）

天気：晴れ

モンブラン単独山行を中止にしたので特に書く事もないのだが、柴田 SL と合流するまでの軌跡を一応残しておきたいと思う。

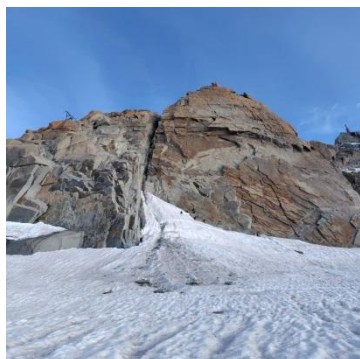
この日は6:30頃起床し7:00に朝食をとった。朝食の際の好みを事前に質問されていたので個別に運ばれるのかと思いきや、小屋スタッフは見当たらず。ダイニングを見渡すと、ビュッフェ形式で食材が並んでいたの、恐らく勝手にやれという事だと判断し、そのようにした。食事を摂り終え、出発の準備を済ませた頃、ようやくスタッフが現れたのでチェックアウトを試みた。精算をお願いすると、昨夜飲んだビール代だけの請求であった。コピーしておいた領収書を見せて、私は小屋代として44€を事前にWebで支払い、残りのMontant36€を現地で支払う事になっている旨を必死に伝えるもその必要がないと言われる。何度チェックし直してもらっても、同様の回答だったのでその様にしてもらった。私は幸運にも44€でコスミック小屋に泊まれてしまった。まあその分、高額なビールを沢山購入したので良しとしてもらいたいところではあるが。



コスミック小屋の朝食

そんなこんなで8:00前にお世話になったコスミック小屋を後にし、時間をかけてエギーユ・デュ・ミディ駅まで戻る。途中、駅展望台に突き上げるアルパインルートに取付いているパーティーがいくつか発見でき興味深か

った事を思いだす。柴田 SL と一緒だったらやってみたかったなとか、新人前田を鍛えて数年後にまたくるかな、とか色々もの思いにふけながら歩を進め、9:00 に駅に到着した。この頃になると息苦しさもかなり解消され、高度に体が慣れ始めている事に気付いた。モンブランには登れなかったものの、アイガー、マッターホルンに向けての高度順応だと思えば、単独でここまで来たのも無意味ではなかったんだと自分に言い聞かせ、悔しい気持ちをごまかしつつの下山であった。



帰路のアルパインルート

その後の私のシャモニーでの行動については、ただの旅記録になってしまうので、8/9 からは柴田 SL 記録のスイスツェルマツ編以降へバトンタッチしたいと思う。ここからが実際の山行記録となる。河本からの山行報告は以上となる。

2 スイスツェルマツ編 8/9-13(柴田記)

8月9日(金)

天気：晴れ

自宅→羽田→パリ→ジュネーヴ

待ちに待った出発当日となった。10:20 羽田発の飛行機に間に合うよう7:00 頃茅ヶ崎の自宅を出発し、8:30 頃に羽田空港第1・第2ターミナル駅に到着した。お盆期間という事もあり、これから出発するであろう日本人旅行者で手荷物預けの列は長蛇の列となっており出だしから焦る。だが、搭乗時間が近いという事で優先的に通して貰うことになり、有難いことにスムーズに手荷物を預けることができた。保安検査を通過し、飛行機の搭乗まで免

税店で買い物をして出発ロビーで時間を潰した。定刻通りに呼び出しがかかり、10:20 羽田発パリシャルル・ド・ゴール空港行きの JL45 便に搭乗した。

エコノミーの3列シートだったが、日系キャリアという事もありサービスも良く、15時間ほどの長丁場だったが、快適に過ごすことが出来た。機内食は、お昼は豚の生姜蒸しご飯を選択、夕食が無印のバターチキンカレーだった。都度食事前におつまみが出て、ビールも飲み放題だったので珍しく3缶くらい飲んでしまった。食事以外の時間は、シートに付いていたモニターで映画を見たりアニメを見たりして時間を潰した。スマホに動画もダウンロードしてきていたのだが、結局観ることは無かった。

そんなこんなでパリに定刻通りに到着し、ジュネーヴへの乗り換えのため3時間ほど空港のロビーで過ごした。自分にとっては初めての海外だったので、到着ロビーから出発ロビーへの移動も大興奮で、人や建物、看板、売っているもの全てにテンション上がりまくりだった。ご飯も食べるか悩んだが、日本と値段が違って躊躇して辞めた。(そのうちこの値段に慣れてくるのだが、)

パリまでの飛行機の中でSIMカードを入れ換えておいたので、この乗り継ぎの時間もスムーズに携帯を使う事が出来た。(国内で買っておくと到着後スムーズだが、後に出てくるジュネーヴの両替受付で無料で貸し出してくれた) この頃河本 CL からもホテルに到着した旨の連絡を貰い、空港からバスの乗り方も教えて貰った。20:45 にパリを出発し、1時間ほどでジュネーヴに到着した。搭乗手続きも簡単なもので、機体は小型で国内線のような感じだった。機内食には、チーズサンドイッチが出た。

22:00 頃ジュネーヴ空港に到着した後、荷物を回収し両替機で少し両替してから保安場を出た。しばらく空港のロビーをウロウロしていたら、遅い時間でも両替受付がまだ開いていたので、日本から持ってきた20万円全てを両替した。聞けば、使わなかった分は同額で日本円に両替してくれるとのこと。最初からここで全額両替すれば良かった。その後、河本 CL に教えて貰ったバスの乗り場へ向かったがよく分からず、ホテルも空港から500m ぐらいだったので、結局歩いて行く事にした。空港を出て左に真っ直ぐ進むと、歩道橋があり対岸に渡ると右手にホテルがあった。チェックインを済ませよ

うと、受付でモタモタしていると、丁度河本 CL が降りてきて下さって同行者だと認めて貰えた。

合流して外でタバコを吸いながら、これまでの河本 CL の様子を聞いたり自分の飛行機の話をして部屋に入った。部屋で荷物をバラしながら、明日以降の作戦会議をした。予報を見ると日曜日以降はどこもあまり天気が良くない様子で、アイガーよりもmatterホルンの方が日程の前半は良さそうだった為、順番を前後し、matterホルンを登ってから、アイガーを目指す計画とした。予定が決まった後は河本 CL の買ってきてくれたワインを頂き、シャワーを浴びて程なく就寝した。



羽田から出発



機内でビールとおつまみ

機内食

8月10日(土)

天気：晴れ

ジュネーヴ→ツェルマット

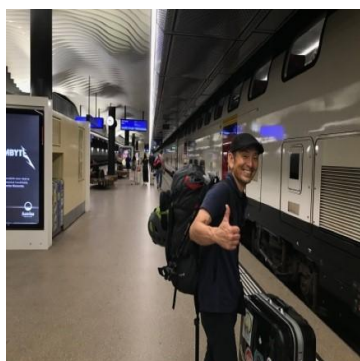
本日は前半をmatterホルンに変更した為、ジュネーヴからツェルマットへの移動日となった。9時頃の電車を目指して、7時頃に起床。ホテルの朝食(パンとチーズとハム?サラミ?とかのバイキングだった。コーヒーメーカーのコーヒーがとても美味しかった)を食べ、支度をして8:30頃にホテルを出発した。河本 CL のスーツケースのタイヤの調子が悪く(ケースも大きく重たかったので、旅行期間中本当に大変だったと思います。お疲れ様でした)、当初はバスで向かう予定だったが、現地の人にバス停を聞いても歩いて行けるよと言われ、話を聞いてくれた日本人の方もバス停が分からず次のバスもいつ来るかといった感じだったので、結局歩いて空港駅に向かった。

9時頃空港駅に着いて、ハーフフェアチケット(2万円程で買える、スイスの鉄道やロープウェイ等が半額で乗れるチケット)を使用して切符を買いたかったので、とりあえずSBBの窓口に入った。整理券を取り10分ほど待つと、スタッフに案内され、券を売ってくれた。その際にフィスプ→テッシュ間の鉄道が災害で運休しており、振替バスが運行している事を教えてくれた。あと、ここに置いてあった英語のスイス鉄道マップのような無料の冊子が大変役に立った。チケットを買った後、券売機が無いか探してみると、ATMのような券売機を発見し、券売機でも窓口と同じ値段の半額で買える事が判明し一安心。エスカレーターでホームに降りて、ベルン行きの電車に乗った。ローザンヌ駅でブリーク行きの電車に乗り換えて、フィスプに到着した。初めての車窓からの景色はスイスらしい湖や山々の美しい自然景観、ヨーロッパらしい街並みに溢れており、とてもテンションが上がった。フィスプ駅を降りて外に出ると、ロータリーに沢山の大型バスが停まっていた、行き先を聞かれたのでツェルマットと答えると、テッシュ行きバスに誘導してくれた。大きな荷物をバスの荷台に入れバスに乗り込み、1時間弱でテッシュに到着した。そこから皆でゾロゾロとツェルマット行きのホーム迄歩いて、電車を待った。電車に乗ってからは5分程でツェルマットに到着した。

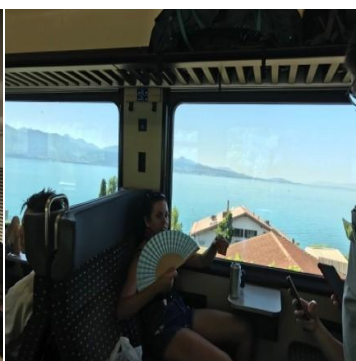
ツェルマットの駅を出ると、写真で見ていた景色が広がっていて、いよいよかと気分が上がった。駅から右に真っ直ぐ広がる商店街は多くの観光客で賑わっていて、夢中で進んでいるとどうやら道を誤ったようだ。キャンプ場は、駅を乗りて右ではなく左に真っ直ぐ行ったホテル街で少し落ち着いた雰囲気の方角にあった。駅からキャンプ場までは徒歩5分程で、通りに面してキャンプ場があった。到着したのは14時過ぎだったが、既に多くのテントが張ってあった。後から聞くと、我々のように連泊の人が多いようだ。キャンプ場に入ってすぐ右手に受付棟(8~10, 17~18しか開いていない)とシャワールーム、トイレ棟があり、左手にゴミ置き場、その奥に芝と立ち木があるテントスペースが広がっていた。大きな荷物を抱えて張る場所を探していると日本人に声を掛けられた。話を聞くと、毎年のようにヨーロッパアルプスを訪れている方のように親切に現地の状況やルートのことを教えてくださった。テントを張り終えて荷物を置いたら、駅近くのコープへ買い出し。今日の夕飯、明日の朝食、明日以降の行動食を買い、明日のロープウェイの場所を確認し(駅前のインフォメーションセンターに行き話を聞いたが、シュバルツゼーまでのロープウェイはもっと奥の場所だと言われ、結構遠そう)

ったので下見は諦めた) キャンプ場に戻った。

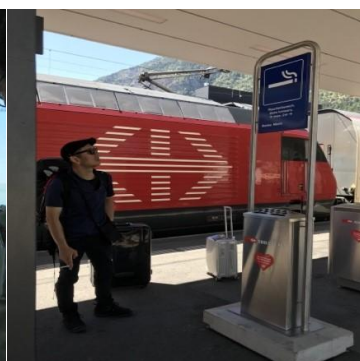
戻ってからは気になって買った牛乳で乾杯をして、夕方でもかんかん照りのテント場で南西に頂上付近がちょこっと見えるマッターホルンを眺めながら、タバコを吸ってゆっくり過ごした。最高の時間だった。夕飯はパンチェッタとレタスの炒め物とソーセージを焼いて、日本から持ってきたお米を炊いて食べた。夕飯を作っている頃、キャンプ場の上の道をヤギの群れが歩いて行っていたのが可愛かった。恐らく夜中はこの辺にいて日中は麓の方まで放牧しに行っているのだと思う。明日からの作戦会議(この時決行を決めてヘルンリ小屋を予約した)をして、シャワーを浴び(温水が出るシャワーが2つしかないので行列必至)就寝。



空港駅から出発



車窓からの景色



ホームに喫煙所！



フィスプからのバス



テッシュからは電車



ツェルマット駅



駅から見て右の商店街



左のホテル街



キャンピングツェルマット



シャワー棟



受付棟の掲示



キャンプ場隣のスーパー



スーパーの品揃えは豊富 基本こんな感じで自炊 キャンプ場から見える！





ヤギ達がお家へ

8月11日(日)

天気：晴れ→曇り→雨→曇り

ツェルマット→ヘルンリ小屋

6:30 頃に起床、朝食（昨日の炒め物の雑炊）を食べて、山の道具を整えて9時頃にキャンプ場を出発した。（キャンプ場は一泊 20CHF だが、荷物のみであれば半額の 10CHF とのことで明日の夕方に帰ってくることを伝えて、山道具以外はキャンプ場にデポした）

商店街に沿ってロープウェイのツェルマット駅を目指す。途中でヤギの群れに遭遇し、動画を撮ったりしながら後ろを歩いていたが、糞を撒き散らして歩くので（日に何度か清掃用の車両が走っていた）途中で抜かして行った。駅に向かっていくと、マッターホルンも徐々によく見えるようになってきて意気揚々と記念撮影。30 分ほどで駅に到着し、空いているカウンターで半額券を見せてチケットを購入。途切れずやってくるロープウェイに乗り10分ほどでフーリに到着した。ここで乗り換えかと思い一度降りたのだが、そのまま乗っていればシュバルツゼーまで着くようだったので、もう一度乗り直して15分ほどでシュバルツゼーに到着した。駅前には広場があり、絶好のマッターホルン撮影スポット。イタリア人の老夫婦を記念撮影してあげ、我々も記念撮影をした。目の前に広がるザ・ヨーロッパアルプス高原の景色と雄大なマッターホルンの山容で気持ちが昂ると同時に山頂までの途方もなさそうな距離感と急峻さで本当に登れるのか不安になった。

そんなこんなで10時過ぎにシュバルツゼーを出発し、明瞭なハイキング

コースを歩き始めた。この時点で標高が2600mほどあるので、気温は低い
が風もなく日差しが強いので汗をかくほど暖かかった。(半袖で歩いている
人が多かった) 100m ぐらい上がると砂利道になって以降は頂上まで植物の姿
は見なかったように思う。1時間と少しでヘルンリバンベルク駅に到着した。
ここから少し道が険しくなるようで、いよいよ始まるのかと気分が上がった。
駅の上にある大きな岩壁の左側に鉄のスロープが付いていてそこを抜ける
と視界を遮るものが無くなりマッターホルンの全容が見えてきて、ヘルンリ
小屋も見えた。そこからまっすぐ歩いて階段や梯子を登りながら小屋の前の
リッジを左上し、2時間ほどで13時過ぎにヘルンリ小屋に到着した。

小屋の前のテラスには、多くの人がいて食事をしたり休憩をしたりしてい
た。15時にならないと受付ができないようだったので、少し休憩して、明日
の取り付き箇所の下見に行った。歩いて10分ほどの岩壁に取り付きがあり、
壁に鉄の足掛けが付いていて登った先にトラバース用の綱が張ってあつた。
登った先は結構急そうだったので今日はここまでにして、トレラン?の
軽装の人が登っているのが見えたのでその人が登っている様子を観察して
いた。この時間から取り付いてどこまでいくのだろうか。明日の下見だろ
うか。15時には受付の為に小屋に戻り、昨日払っていなかった残りの宿泊費
を清算(カード可)し、部屋の説明を受けた。2階の部屋だと説明されたが、
受付開始直後だったからか2階への階段にロープが掛かっている上に上が
れず迷った。ロープを外してもらい、2階に上がるとドミトリーの部屋で10
個の2段ベットがあったが入り口近くの独立した2段ベットを選んだ。(下
のベットが埋まっていたので上にしたが、ベットの幅が狭く柵もないので落
ちないか不安だった)中の食事スペースで買ったコーラ(7CHF!)を飲んでル
ートを見たり、明日の為に外でコンテの練習をしたりしながら時間を潰し、
19時の夕食時間になった。座席は自由だったので、今回唯一同じタイミン
グで宿泊していた日本人の方(名古屋の労山所属の方で、明日ガイドと2
人で登るようだ)とそのガイドと一緒に食事をした。夕飯はジャガイモ?
のポタージュ、ラタトゥイユ、豚の焼豚のようなもの、チーズリゾット、デ
ザートのコーヒーのムースで、山小屋なのに中々重たい食事だった。おかわり
自由でリゾットと豚肉をおかわりしお腹いっぱいになった。夕食後、外でタ
バコを吸っているとクロアチアの女性に話しかけられ(旦那さんがガイド
で、二人でガイドレスで登るようだ)、その後ドイツ人のご家族(ヘルンリ
小屋までの観光のようだ)にブランデーを頂いて少し話して(12日中に降

りてくれば、ツェルマットでお祝いをしてくれると言ってくれたが間に合わなくてすみません)、軽く明日の支度をして就寝した。(夕食後、玄関の辺りに温かいパッションティー？を用意してくれるので、水筒に入れておくと良い。朝にはなくなっている)



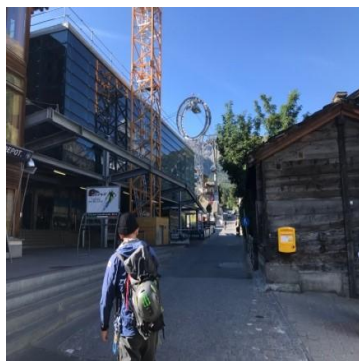
ヤギと一緒に歩く



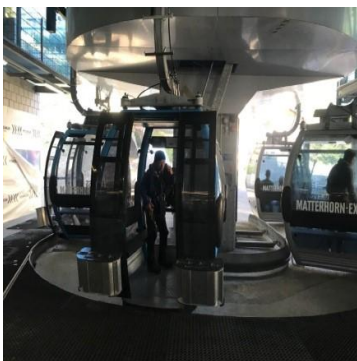
威嚇される



マッターホルンが見えてきた！



ロープウェイ駅



ガラガラ



このときは元気



フーリ駅



シュバルツゼーからの景色



ハイジの世界



暑いくらいでした



気持ちいい景色



途中から植物がいなくなる



長い道のり



ヘルンリバンベルク駅



駅からマッターホルン



鉄の廊下



飛行機雲がかっこいい



小屋が見えてきた



小屋までの登り



梯子もある



ヘルンリ小屋



小屋からマッターホルン



明日に向けて偵察



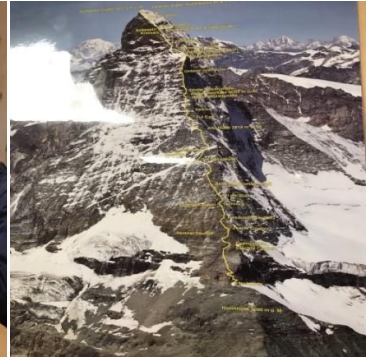
取り付き



この左上に寝た



食事スペース



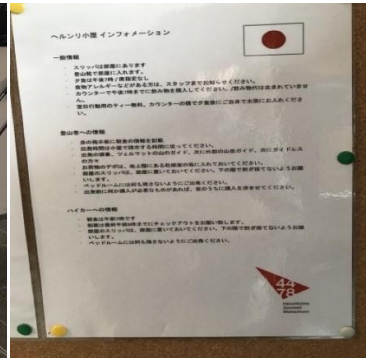
小屋に貼ってあった写真



夕食は美味しかった



パッションティー？



日本語の説明書き

8月12日(月)

天気：晴れ→曇り・雷→雹→曇り

ヘルンリ小屋→マッターホルン頂上→ソルベイ小屋

朝食は4:00からで、ガイド登山者の出発が4:20からとなる為、ガイドレス登山者は4:20のガイド登山者の出発を待っての出発となる。(前日に、小屋の女性へガイドたちよりももっと早い時間に出発をさせてもらうことはできないか相談したが、わざわざ小屋番が出て来てやはりダメと伝えてくれた。登ってきて思ったが、浮石も多い山なので、道が分からない人が先行するのは危ないからなのだろう) ガイド登山者たちは、4:00から15分で朝食を済ませて、5分で支度をし4:20に出発をしていった。我々も可能な限りガイドたちの後ろを付いていく作戦だったので、3:30頃起床し4:00前には支度を済ませて朝食をとり(ヨーグルトやグラノーラ、パン、サラミ、チーズのバイキング)、ロープを繋いでコンテで出発した。(めっちゃうちゃ焦って

出発したので、余裕持ってもっと早めに起きれば良かったと後悔。ちなみに登山に使わない道具は小屋のデポスペースにデポできる)

ガイドレスのGOサインが特に出されるわけでもなく、聞いてみてOKとのことなので出発したが、外に出るとガイドたちのヘッドライトは結構遠くに行ってしまった。昨日の取り付きまで急いで上がり、足掛けを上がってロープを伝ってトラバースをし、岩を巻くとザレ場が広がっていた。ザレ場には踏み跡で道が出来てはいるが、暗くて道もわかりづらく軽く迷っていると後続の人たちが上がってきて、その人たちに合流するように軌道修正し、ガイドレスのパーティ3パーティと一緒に登っていく形となった。(この時点でガイドの人たちのライトは相当遠くに行ってしまった。道が分かっているのと単純に歩くスピードが相当早い) ザレ場を抜けると、今度はリッジを上がっていく。手も使いながらのクライミングとなるが、事前情報の通りクライミング自体はそこまで難しくない、というかホールドやスタンスが沢山あるせいでどこからでも登れそうだから適当なところを登って道を間違えてしまう。前のイタリア人2人パーティについていく形で我々とドイツ人3人パーティが登っていたが(もう1パーティ(スウェーデンとオーストラリア人)は先に行ってしまった)、どうやら道を間違えたようで、一度クライムダウン。(事前情報では、リッジの左側を登ることを意識するとのことだったが、心理的にリッジを上へ上へと上がってしまうが、上りきると詰まってしまう)

そこからは各々行けそうなところから、リッジの左側のガレた箇所を登って行った。ここで我々は他の2パーティと別れて単独で登る形となった。この時点で7時前頃。ガレ場は道が不明瞭で、道を外れると浮石がひどくルートファインディングが難しい。(この辺はおそらく正規ルートを外れていて、正規ルートよりもリッジ寄りを上りすぎているように思う)

そんなこんなで登り続けていると、下山をしてきているパーティを発見。やはり我々よりもずっと下の左の方を歩いている。トラバースしてなんとかルートっぽいところに戻り、アンカーの鉄ピンも発見し復帰できたようで一安心した。そこからはアンカーを目印にしながリッジの左側のルートを辿っていると、8時頃リッジ上にソルベイ小屋が見えてきた。ここからそう遠いようには見えなかったが、ルートを間違えないようソルベイ小屋を見失わ

ないように慎重に登ったので時間がかかった。10 時過ぎソルベイ小屋の直下の太い綱が垂れている箇所には到達し、セルフを取りながら綱を登ると核心との噂の岩壁に着いた。ここまでは、ところどころアンカーにロープをかけながらコンテで通過をしていく形だったが、ここは III 級程度の岩場と聞いていたので念のためスタカットで登った。ソルベイ小屋で引き返して懸垂してきたパーティを見送って、岩壁のルンゼ上を登った。スタンスやアンカーは豊富でそこまで難しくないが、一手一手が大きくてヨーロッパ人の体格を感じた。登りきって河本 CL が登ってくるのを待っていると頂上から降りてきた昨日の日本人の方とすれ違った。頂上付近の雪が悪くコンディションはあまり良くないとのこと。その後に来た女性ガイド（クライアントが遅くて頂上は諦めたよう）からも too too slowly と言われ、なかなかまずいのではないかと焦る。ソルベイ小屋で軽く休憩を取り、続々と降りてくるガイドパーティを見送って 10:30 頃ソルベイ小屋を出発した。

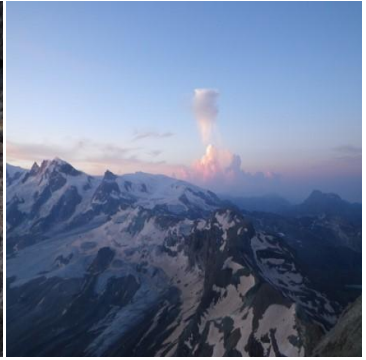
ソルベイ小屋を右手に通過すると、そのまま右手に岩壁が続いていて、その岩壁からリッジに乗り上げる。ここもコンテで登ったが II~III 級程度でそこそこ難しかったように思う。リッジに乗ってからはそのままリッジ上を登っていく。このころから上空でヘリコプターが旋回しているのが気になった。何かあったのかと思っていると、先ほど一緒に行動していたドイツ人 3 人パーティの 1 人が降りて来て、2 人が滑落したとの事。その 2 人を捜索してヘリコプターが出動しているようだった。笑いながら言われたので呆気にとられたが、改めて気を引き締めて登り続けマッターホルンの肩に到達した。ここから雪が出て来たのでアイゼンを装着し細いリッジを渡って最後の登りが始まった。ここで 12 時前くらい。

登り始めはリッジの右側に綱が張ってあったが、綱が雪で埋まっている箇所も多く、急傾斜かつ雪の付き方も甘いので緊張した。ここもコンテのままの登り、所々にあるアンカーに中間支点を取りながら、止まることなく登り続けることができた。綱に沿って右側からリッジに乗り上げるとここからはリッジ上を進むこととなり、日当たりの良い箇所では雪が溶けていて岩と雪のミックスと行った感じで、綱が張ってある箇所も多かった。一部垂直の登りの箇所があり、綱だけでなく短いはしごもかかっていた。このあたりで 12 時半頃。十字架のモニュメントや岩室があってもう頂上か！と思っていたら垂壁を乗っ越すとまだまだ頂上まで距離がありそう、時間的にも焦り

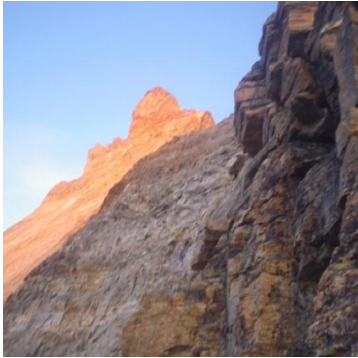
が増して来た。ここからは薄い雪が付いている箇所が増えて来て、雪の奥に氷が張っており、奥までアイゼンの刃が入らない為、しっかりとアイゼンを効かせないと登れず一步一步に時間がかかった。1時間ほどそんな道を登っていると上にマリア像が見えて来て、今度こそ頂上だ。14時前にマリア像を通過して、稜線に出た。ここから稜線上を右に進んで行くと有名な大きな十字架のモニュメントが見えた。モニュメントの直下で動画を撮影しながら14時丁度、ついにマッターホルンの頂上に到達した。

記念撮影して軽く休憩をとったら急いで下山を開始した。夕方から天気が崩れる予報となっており、登りと下りで同じくらいの時間がかかると聞いていたので、登れた方がいいが無事に下山できるのか不安になる。来た道戻りで降りていると、最後の雪壁部分で途中抜かしたイタリア人2人パーティや前日話していたクロアチア人のパーティとすれ違い、まだ登っている人がいると少し安心したのも束の間、だんだんと雲やガスが濃くなって来た。雪の付き方も甘く傾斜もキツイので、下山も思うように進まず、垂直近い箇所からは懸垂下降で降りることとした。4,5回懸垂をしてやっと肩の部分に降りる頃には17時になっていて、周りは雷雲で覆われ体がピリピリふわふわし始め、次第に雷の鳴る音も聞こえて来た。焦る気持ちを抑え慎重にコンテでリッジを降り、ソルベイ小屋の上のあたりから懸垂をして、3回ほどで19時前にソルベイ小屋に到達した。

これ以上行動を続けるのは危険と判断し、ソルベイ小屋でビバークをすることにした。ソルベイ小屋に入るとすでに2人パーティが1組入っていて、表の部屋の2段ベッドで寝ていたので、我々は奥の部屋を使わせてもらった。(ベッド1つあたり2人くらいは寝れる広さで、表の2段ベッドと奥の部屋のベッド1つで6人くらいであれば快適に寝られそうだった。汚いが、毛布も豊富にある)荷物を置いて、カラカラの喉を癒すため(ヨーロッパは乾燥しているのと、高度が高いこともあってかやたらに喉が乾く。この時点で持参していた1lの水と350mlの PassionTee が空になっていた)小屋の屋根から落ちる水滴をボトルに落とすようにセットし、タバコを吸っていると間もなく大粒の雹がものすごい勢いで降り出した。これでは到底行動などできないであろう。1時間以上は降り続いていた。外のボトルを回収し、水とお菓子を摂取して上の人たちの無事を祈って程なく就寝した。毛布もあったので、そこまで寒い思いはせずに済んだ。



この辺りは間違っリッジに乗り上げてしまっている写真



ルートミスに気づいてクライムダウンしたり左にトラバースしていく

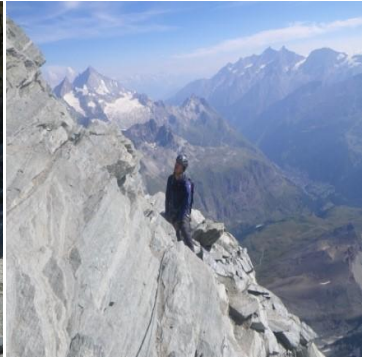


リッジを右手に登っていく

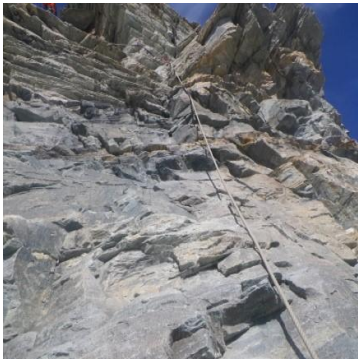
下の景色も綺麗



だんだんとソルベイ小屋が近づいてくる



後ろは絶景



ソルベイ小屋直下の綱



中間支点



肩からのトラバース



雪壁の始まり



序盤は岩が多い

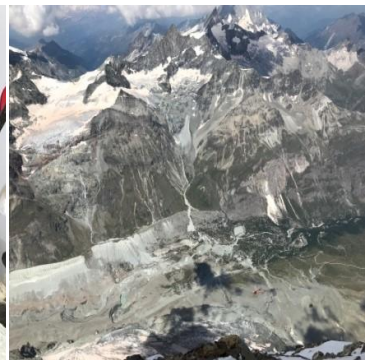


岩室



傾斜が急になってくるが綱はある マリア像

頂上直下



十字架と記念撮影

頂上で一服

頂上からの一枚

8月13日(火)

天気：晴れ→曇り→雨→曇り

ソルベイ小屋→ヘルンリ小屋→ツェルマット

6時頃起床し、落石の危険もあるので、ガイドたちが上がって来た後7時頃に出発した。昨日の雹ですっかり山は雪景色となっており、出発からアイゼンを装着した。小屋で長めの休憩をとっていたガイドパーティが時間切れで引き返すようだったので、その後をついていく事にしたが、小屋直下で一度懸垂をした後、ガイドパーティを見失い結局踏み跡を辿りながらの下山となった。雹のおかげでいくらか踏み跡は分かり易いものの、どこが道だかとても分かりづらい。降りて登り返してを繰り返しながらリッジの右側を下っていった。ソルベイ小屋からヘルンリ小屋は見えているのだが、道を逸れると浮き石だらけで思うように進まず中々近づかない。途中の10時半頃、半分以上降りて来た箇所(行き道でリッジに乗り上げた辺り)でリッジの右か

ら左に移り、そこからリッジに沿って下っていった。この辺りからは道も分かり易く、行きに通った道を辿りながら下っていくと 12 時半頃に取り付きに到達した。

取り付きの足掛けを下りきってやっと安全地帯。河本 CL と勝利のハグをしていると取り付きを見に来ていた外国人たちがお祝いと記念撮影をしてくれた。ヘルンリ小屋に戻ると双眼鏡を持った小屋番が出て来ていて、我々に大丈夫だったか、昨日はどこに泊まったんだと声をかけてくれた。話を聞くと、登っている人たちを双眼鏡で見守っていてくれていたらしくソルベイ小屋の辺りにいるのは見たから大丈夫だろうとは思っていたけどとのこと、なんて有難いことだろうか。また我々の後ろにいたイタリア・クロアチアのパーティは、昨夜雹が落ち着いた頃にヘリコプターで救出されたらしく、クロアチアの女性は足を折る怪我を負っていたとの事。本当に雹が降り始める前にソルベイ小屋に逃げ込めて良かった、

ヘルンリ小屋でコーラを買って飲みながら休憩していると、河本 CL のアイゼンがどこかにいってしまった事が発覚。少し登り返して捜索したが見つからず、諦めて 14 時前にヘルンリ小屋から下山を開始した。そこからは来た道を早足で降りていき、15 時半前には シュバルツゼーに到着した。列も出来ていなかったのもので、往復券を改札でかざしてスムーズにロープウェイに乗り込むことができた。あつという間にツェルマット駅に到着し、そこから歩いて 16 時過ぎにはキャンプ場に戻ってきた。17 時から受付で昨日帰ってこれなかったことを伝え、追加の宿泊費と、隣のスパの代金(キャンプ場の隣に提携のスパがあるらしく安く買えるらしい。15CHF) を払って夕食の買い出しにいった。ビールで乾杯をしてキャンプ場にいた日本人の方と山行の話(現地のジュースでお祝いしてくれてありがとうございました)をした後、20 時からスパに行って汗を流した。スパと言っても温水プールとサウナが併設してある混浴ですっぽんぽんで本当にいいのか?と言った感じ。温水プールは水着着用 OK で家族連れが遊んでおり、裸ではとても肩身が狭かった。サウナは水着 NG で寝れるサウナや蒸気サウナもあって快適だった。スパから上がって夕食(ツナとルッコラのマヨ和えご飯)を食べ、程なく就寝した。



ソルベイ小屋からの懸垂



ガイドを見失う



昨日なかった雪がある



少し嫌なトラバース



喉がカラカラで岩の水を飲む



リッジの右側を下山



間違えて右側を下り過ぎる



左の凸部手前から左



砂利が出てきてあと少し



取り付きのすぐ上まできた！ 取り付きで一枚 ヘルンリ小屋からも長い



シュバルツゼーが見えた！ ツェルマット

3 スイスグリーンデルワルト編 8/14-18(柴田記)

8月14日(水)

天気：晴れ→曇り→雨→晴れ

ツェルマット→グリーンデルワルト

前日までの疲れや行程が1日押してしまっている事とこれからの天気予報から、アイガーは難しいかもしれないと思いながらも、せっかくなのでとりあえずグリーンデルワルトに向かう事にした。7時頃起床し、9時頃荷物を纏めてキャンプ場を出発し、電車に乗ってテッシュで乗り換えバスに乗りフィスプへ、そこから再び電車に乗ってシュピーツで乗り換えインターラーケンに向かった。電車で乗り換えを調べていると昨日までの大雨でグリーンデルワルト手前の電車が止まっているとの事。ツヴァイルツィネン駅から臨時バスが出ているとの事だったので、そこまで電車に乗っていき降りると、すごい人だかり。大量の人がバス待ちをしていたが、程なく大型バスが5,6台来たのでなんとか乗り込み30分ほどバスに乗って13時頃にグリーンデルワルトに到着した。

駅からキャンプ場までは20分ほどの距離で意外と遠く、途中でゲリラ豪雨にも見舞われ散々だった。キャンプ場の受付に行くと、雨が止むまで隣のカフェで待っていて良いとの事、本当に止むのかというくらいの大雨だったが、2,30分ほどでカラッと止んだ。乾燥している山岳地帯の天気はこんな感じなのだろうか。受付を済ませてテントを張り（場所は指定してくれる）、駅まで夕食の買い出しに行く。駅構内のコープで夕食を買って、キャンプ場に戻りキャンプ場のコインランドリー（受付でお願いすると5CHFずつで洗濯機と乾燥機用のコインをくれる）で洗濯をして、アイガーの北壁を見ながらゆっくり過ごした。明後日以降の天気がやはり好転しなそうなので、アイガー行きはここで諦め、アイゼンが無事な柴田単独で明日メンヒに登る事とした。ビールを飲みながら夕食（持って来た漬物と味噌汁、ご飯と買ったサラミ）を食べてシャワー（こちらはシャワー棟が新築ピカピカで5台くらいあった）を浴びて就寝した。



シュピーツで乗り換え



バス待ちの人たち



アイガー北壁



カフェで雨宿り



アイガーノルトワルド

8月15日(木)

天気：晴れ→曇り

グリンデルワルト→メンヒ頂上→グリンデルワルト

6時頃起床し、朝食を食べて7:30頃にキャンプ場を出発、8時頃にロープウェイの駅（電車の駅と同じ建物）に着くと長蛇の列が出来ていた。券売機で往復の券を購入し並んでいると30分ほどでロープウェイに乗れた。15分ほどでアイガーグレッチャーに到着するとここでも長蛇の列。また30分ほど待ってユングフラウヨッホ行きのケーブルカーに乗車した。途中でアイスメール駅にも事前情報の通り5分ほど停車していたので、下車して窓からミッテルレギ小屋までの道も確認できた。雪は残っているがとても大きなクレバスが出来ていて、踏み跡が切断されており岩壁に辿り着く迄のトラバースも大変そうに思えた。また次に挑戦する時の為にも、ここまで来て景色を見られて良かった。程なく10時前にはユングフラウヨッホ駅に到着し、ここで河本CLと別れてメンヒを目指した。

到着が想定よりも遅れてしまったので、急ぎ足で反時計回りに駅構内を進み、途中で右に曲がって駅構内からスノーファンパークへ出ると一面に銀世界が広がっており、ファンパークにはソリを楽しんでいる観光客がたくさんいた。ここからメンヒスヨッホヒュッテまではブルドーザーで除雪がされていて歩きやすい道が出来ているので、観光客の人でも歩いて観光ができる。観光客を横目に急ぎ足で歩いているとメンヒの取り付きが左手に見えて来て、ブルドーザーの道から左に外れて進むと、10:20 頃にメンヒの取り付きに到着した。到着すると先行の 2 パーティ (2 人ずつ) が登り始めたので、取り付きで準備と休憩をして後を追った。

出だしは、お助け紐と岩壁に足掛けが付いていて、ここを登りきるとテラスに着いた。そこからは浮石に気をつけながら砂利道を進み簡単な岩登りをしながらリッジを詰めて行く。私は 1 人軽荷だったので、先行を追い抜き程なく雪が出て来たが、ステップもしっかりしていて、傾斜もそれほどでなかった。ここは登山靴のまま登った。雪が切れると今度は細めのリッジでところどころに中間支点用の鉄棒が立っていたが、ロープを出すほどでもなかった。岩は乾いていて、靴のフリクションもよく効き、ホールドも豊富でしっかりしているので、快適な岩登りが出来た。鉄棒を辿りながらリッジを登って行くと 11:30 頃に頂上付近の雪壁に着いた。ここでアイゼンを装着し、ステップを辿って 10 分ほどでメンヒの肩に乗り上げた。ここからメンヒ頂上まではナイフリッジが続いていて、雪もグズグズだったので、とても緊張した。滑り落ちたら一溜まりもなさそうなので、ステップを確かめながら着実に一步一步進んだが、足場が狭いので降りてくるパーティとすれ違う際は冷や汗いた。12 時丁度にメンヒ頂上へ到着。特に標識のない狭い頂上で絶景に感動しながら長めの休憩を取って、12:30 前に頂上を出発、さっさと下山をして 13:30 過ぎに取り付きまで帰って来た。帰りは行きよりもルートが分かりづらいので要注意。

取り付きからせつかなのでメンヒスヨッホヒュッテに寄って、アイガーからの下山ルートを確認し、ブルドーザー道を下りて 14:20 にスノーファンパークに戻ってこれた。ユングフラウヨッホ駅構内の氷の展示も面白く、これで登山の行程を終えたこともあり今回の遠征で初めて海外旅行の気分を味わった。15 時頃に駅からケーブルカーに乗ると、車内でリンツのチョコ

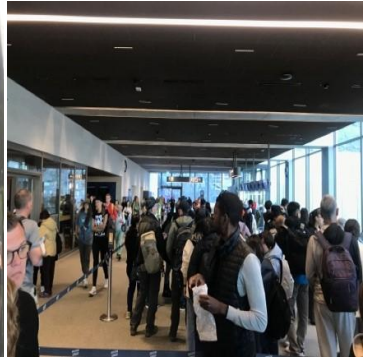
を1枚ずつ皆に配っていて、それがとても美味しかった。駅で買い出しをして16時過ぎにキャンプ場に戻って河本CLと合流。下山の乾杯をして夕食(鶏肉のベーコン巻きを焼いたもの)を食べ、就寝した。



駅は大混雑



ローウェイは大型



乗り換えも混雑



車内の様子



アイスメール～小屋



ユングフラウヨッホ駅構内



駅から出たところ



左手にメンヒが見える



メンヒ南東稜取付



取り付きからの登り



最初は砂利道



やがて岩登り



途中の雪稜



また岩登り



結構いやらしい箇所も



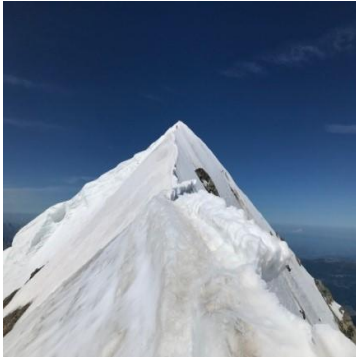
頂上手前から雪がべったり



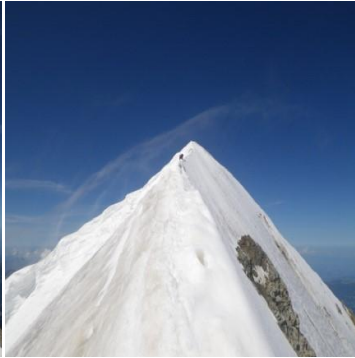
グズグズの雪



左側に頂上が見えてくる



頂上までのナイフリッジ



頂上手前



振り返って



メンヒスヨッホヒュッテ



氷の展示



グリンデルワルトが綺麗

8月16日(金)

天気：晴れ→曇り→雨

グリンデルワルト→ベルン→ジュネーヴ

本日は各自終日自由行動。荷物を纏めてキャンプ場を後にし、線路が復旧したとの事だったので、電車で インターラーケンに移動。河本 CL はそのままジュネーヴに向かったが、私はベルンで途中下車して観光する事にした。ベルンの街並みはザ・中世ヨーロッパといった感じで大聖堂を覗いたり、通り沿いのお店で食べ歩きをしたりして楽しんだ。お昼に名物のロスティ(ジャガイモのチーズがけ)を食べたが、あまりの重さに最後の方はおいしく食べれなかった、、スイスのチーズは美味しかったが、食べ過ぎるとやはり飽きるし重い、、

ベルンを出発してジュネーヴに着いたら、駅から徒歩10分ぐらいのジュネーヴホテルでチェックインをして荷物を置き、噴水を見たりお土産を買

ったりしながら観光をして、夕食に懲りずにラクレットを食べて、ホテルに戻ってゆっくり寝た。



グリンデルワルト駅



ベルンの街



大聖堂



ジュネーヴの噴水

8月17日(土)→8月18日(日)

天気：曇り

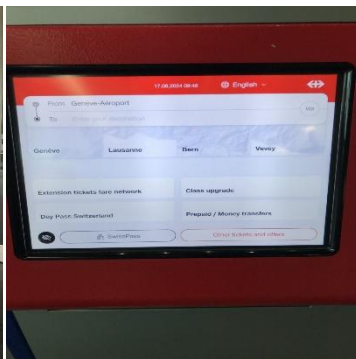
ジュネーヴ→パリ→羽田→自宅

朝食をとり9時頃ホテルを出発、空港駅に向かった。飛行機の出発は14:40だったが、余裕をもって集合は10:30としていたので、集まってからとりあえず中に入ってしまうと言う事で、両替、荷物預け、保安検査を終わらせて出発ロビーに入ったのが11時。この出発ロビーがEU圏への小さなロビーだった為、見て回れるお店も喫煙所もなく、4時間弱がとてつもなく長かった、EU経由で日本に帰るときは要注意。そんなこんなで無事ジュネーヴを出発し、パリを経由し、(前日のパリ→羽田便が台風の影響で欠航となって1日スライドしており、我々の搭乗便が臨時便となっていた。1日ずれていたらパリで一夜を過ごす羽目になっていた) 8月18日(日)の20:00頃羽田

空港に到着。電車に乗って自宅まで帰宅。



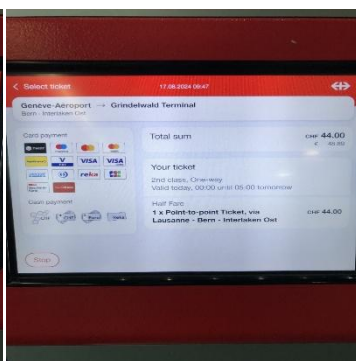
駅の券売機



出発地と目的地を選ぶ



乗る電車を選ぶ



チケットがあれば、左のハーフフェアを選んで購入（カード可） 時刻表



ジュネーブ空港

第三部

総括

今回の山行は、なかなか計画通りに事が進まなかった事は否定できない。しかし河本、柴田が全力を尽くし、マッターホルンやメンヒ(ソロ)をガイドレスで完登できた結果は、当事者としては十分な達成感を得る事ができたのではないだろうか。この記録は二人の長年のパートナーシップの一つの集大成であり、今後の人生においても掛け替えの無い思い出となる事は間違いないであろう。思えば柴田現 SL が 4 年前、横須賀山岳会の門を叩いて来てくられて以来、様々な試練や経験を踏まえ、河本 CL と共に成長を続けた末の一つの成果となった。

かつては当会でも 1976 年神奈川県山岳連盟ローツェ登攀(当会から 7 名派遣)に代表される海外遠征も盛んに行われていた様であるが、現在は会員減少に伴いそういったスケールの大きい目標を建てづらい現状にある事は否定できない。しかしこれは我々に限った話ではなく、登攀人口の減少に伴い、全国的に山岳会という媒体自体の弱体化が進んでいる現状にある昨今。寂しく思うところではあるが、事実として受け止めざるを得ない。そんな中、少しでも海外登山に興味を抱き、ヨーロッパアルプスにチャレンジしてみたいと思う方々のお役に立ちたいと思い、我々は今回の記録を編集させて頂いた。強いては、この記録を多くの方に目を通して頂き、当会に興味を示し、入会希望者を増やしたいと言うのが本音である事を付け加えておきたい。

最後に

柴田より

まず初めに、今回の山行を様々な形で応援して下さった皆様への感謝を。本当にありがとうございました。

2022年の冬頃から、河本 CL と横須賀山岳会の 75 周年企画としてヨーロッパ遠征に行く話をしており、約 2 年越しの挑戦となりました。目的であったアイガーには登れませんでした、マッターホルンを登頂することが出来て本当に嬉しく思います。

アイガー東山稜、マッターホルンヘルンリ稜ともにメジャールートではありませんが、ガイド登山が一般的な山ということもあり、記録も数は多くなく地図もまともなものが入手できず、初めての海外登山で保険はどうする、装備は何を持って行く、どこに泊まる、費用は幾らかかるなど計画の段階から苦労いたしましたが、海外登山経験のある方からご助言をいただき、河本 CL も根気よく下調べをして下さったので、なんとか出発までに計画を立てることができました。自分はこれまで海外旅行にも行ったことがなく、今回初めての海外経験となりましたが、今後の山行だけでなく人生にとっても本当に良い経験をさせて頂いたと感じております。

改めましてご支援をいただいた皆様、そして誰より私の至らない点を多々フォローして下さい、こんなに素敵な山行と一緒に挑戦して下さいました河本 CL へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！！

河本より

今回の山行は本当に様々な方のサポートの上、自身初となる海外山行する事ができました。特に、ベルニナ山岳会所属、神奈川県岳連指導委員長、金川信一様(現地情報並びに資料提供)、横浜蝸牛山岳会代表、古関正雄様(横浜蝸牛山岳会 80 周年記念誌提供)、葛飾山岳会田村千年様(現地情報提供)、並びに、ご出資して頂いた横須賀山岳会会員各位(OB 会含む)、個人的に出資を下された E 氏、杉本氏、稲福氏、前田氏。感謝してもしつけない思いであります。

今回は本丸であったアイガーミッテルレギ稜を落とす事ができず、大変不甲斐ない結果となってしまいましたが、以上が今の横須賀山岳会の総力を挙げ山に挑んだ結果となります。これからも微力ながら世に山岳会の素晴らしさを普及させていくと共に、当会の発展にも繋げたいと思う次第であります。色々至らぬ点があるかと思いますが、関係者各位、どうかこれからも温かく見守って頂き、我々が成長を続ける事で恩返しできたらと思う次第であります。まだまだ私には夢があります。それを現実にする為、日々精進していきたいと思えます。

Thank you for every mountain climbers !

やっちょー！

編集

河本嘉照(カワモトヨシアキ)

柴田吉暁(シバタヨシアケ)

出版担当

石川誠